

みんなの本だな 1ねんせいへ

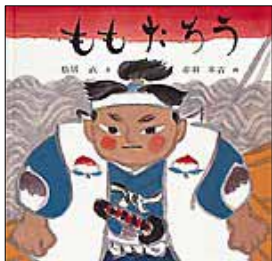
はるがきた



グレアム / 絵 ジオン / 文 こみやゆう / 訳
主婦の友社 [E/ク]

もうすぐ春になるはずなのに、男の子がすむまちはなかなか春がやってきません。まちきれなくなった男の子は、ペンキをつかってじぶんたちでまちを春色にすることを思いつきます。このことをきいたまちの人たちは、おとな子どもも、みんなそろってまちに春の絵をえがいていきました。

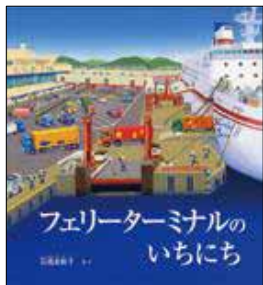
ももたろう



赤羽末吉 / 絵 松居直 / 文 福音館書店 [E/A]

おばあさんが川でひろったものの中から、かわいい男の子が生まれました。男の子はももたろうと名づけられ、どんどん大きくなりました。ある日ももたろうは、おにたちが悪さをして、みんなを困らせていることを知りました。ももたろうはきびだんごを持って、おにたいじに行くことにしました。

フェリーターミナルのいちにち



石橋真樹子 / 作
福音館書店 [E/I]

フェリーターミナルは海のえきです。フェリーはターミナルで次の旅のよういをします。そして、海のむこうの町へ人や車をはこびます。

フェリーターミナルのようすがとても細かくえがかれています。



しろいいぬ? くろいいぬ?

クック / 文 池田龍雄 / 絵
光吉夏弥 / 訳 大日本図書 [933/ク]



のらいぬのダックルズはなんでも口にくわえるのが大好き。ある日、デパートで売りもののぼうしをくわえていました。それを見た「いぬとり」はダックルズをつかまえようとします。ダックルズはペンキをぬって黒いぶちになったり、石炭のはこに入って黒くんだりしながらにげていきます。



おひさまやのおへんじシール

茂市久美子 / 作
よしざわけいこ / 絵 講談社 [913/モ]



のはらのほとりに、「おひさまや」という小さなお店がありました。うさぎが店ばんをしているこのお店には、ふしぎなものがおいてあります。春のある日、おばあさんがお店にやってきました。何をかおうかなやんでいると、うさぎは、おばあさんにたんぽぽの花が6つならんだ細長いシールを持ってきました。



一ねんせいになったら

かべやふよう / 絵 まどみちお / 詞
ポプラ社 [E/カ]



一ねんせいになったら 一ねんせいになったら

ともだちひやくにんできるかな

「一ねんせいになったら」のうたが絵本になりました。ワクワクしたきもちがわいてくる絵本です。さいごには、がくふものっています。声にだして読んだり、うたいながら読んだり、いろいろな読みかたが楽しめますよ。